

進路通信

廿日市市立廿日市中学校
 第13号 令和元年7月11日発行
 進路指導主事 吉本邦治
 3学年進路指導担当 沖本真春

■ オープンスクール、学校公開等の案内

学校名	実施日	校内締切	内容
広島広陵高等学校 オープンスクール	8月31日(土)	7月19日(金)	職員室前ファイルに入っている要項を確認して、必要項目を記入してポストへ投函してください。 なお、野球部の体験入部に参加をする場合は「保護者同意書」および、学校ごとに作成する参加者名簿が必要となります。名簿や学校で用意しますが、「保護者同意書」は各自で作成し、当日持参する必要がありますので注意してください。
広島修道大学ひろしま 協創高等学校オープンス クール	7月28日(日)	申込報告締切 7月19日(金) 高校締切 7月25日(木)	別紙を参照して、各自でインターネット経由にて申込を行って下さい。加えて参加状況の確認のため、共通紙へも校名・名前・参加日を記入の上、申し込みポストへも投函してください。
広島県瀬戸内高等学校 オープンスクール	9月23日(月・祝)	9月3日(火)	別紙を参照。申込用紙を切り取り必要事項を記入の上ポストへ投函してください。
広島県立西条農業高等学 校オープンスクール ・学校説明会	オープンスクール 8月1日(木) 学校説明会 9月21日(土)	7月19日(金)	別紙を参照して、希望者は共通紙に必要事項を記入してポストへ投函してください。 その他①の欄へは希望体験学科名を記入。 その他②へは「みどり寮」見学希望の有無を記入。 その他③へは体験および見学部活動名を記入して下さい。 なお、学校説明会はRCC文化センターにて実施されます。詳細が知りたい場合は伊藤その美先生まで申し出てください。
広島市立広島工業高等学 校オープンスクール	9月21日(土)	8月27日(火)	別紙を参照して、希望者は共通紙に必要事項を記入してポストへ投函してください。 その他① 第一希望の学科名 その他② 第二希望の学科名または自由見学のどちらか、希望がなければ×を記入。

隠れ苦手の克服を(保護者の方へ)

「隠れ苦手」は「活用できるほど理解できていない」のが原因

定期テストでは点が取れるのに模擬試験(模試)では…という子は、まじめでコツコツと勉強しているタイプに多いようです。授業で学んだことを、学んだとおりに尋ねられれば答えられるけれど、違った方向から問われると答えられない。あるいは、定期テストまでは集中して暗記や問題演習に努めるけれど、終わると全部忘れてしまうというケースもよく見られます。公立高校の入試でも、学んだ知識をそのまま問うのではなく、活用するところまでを求める問題が増えつつあります。公立高校受験を前提とした模試も、当然、公立高校入試の傾向を反映しています。範囲の決まっている定期テストでしか点数が取れないのは、「学んだ内容が定着していない」「活用できるほど内容を理解できていない」ことが大きな原因だと思います。

模試は「点数」より「答案」の分析が重要

ところで、保護者の方は、模試の答案をどこまでご覧になっているでしょうか。模試の結果は、つい点数だけを見て一喜一憂しがちですが、この「隠れ苦手」は答案を見ることで発見できます。答案からは、漢字の間違いや計算ミス、単位の付け忘れといったお子さまのミスの傾向もわかります。できれば、答案を見ながら、お子さまとどこが難しかったか話し合ってみるとよいですね。「この問題はあの公式を使うって気づかなかった」「気づいた時には時間切れになっていて答えが書けなかった」など、話しているうちに、お子さま自身の中で課題が明確になってくると思います。いちばん避けたいのは、点数だけを見て叱りつけることです。苦手の原因も不明確なまま、子どものやる気をそぐだけで終わってしまいます。

ノートの取り方からわかること

「定期テストでしか点が取れない」状態を克服するためには、つねに「主体的に頭を使うこと」が必要です。授業も、板書を写すだけの受け身の姿勢ではなく、積極的に受けられるようになるといいですね。機会があれば、お子さまに授業のノートを見せてもらうといいかもしれません。先生が大事だといったところは強調する、図表やさし絵をノートに描き込むなど、お子さま独自の学び方が見えてきます。「こんな取り方はダメ」「もっとキレイに書きなさい」などと否定的な言い方をせずに、お子さまの工夫について尋ねながら、気づいたことをアドバイスしてあげてください。図にまとめることで頭を整理する子、字で書いたほうが頭に入る子、先生の脱線エピソードまでメモすることで記憶を鮮明にする子など、子どもによって個性はありますが、どんな方法であれ、主体的に頭を使えるようになると成績アップしやすくなります。

定期テストの後は消えてしまう勉強のしかたではなく、高校入試にも、その先の一生にも長く役に立つ知識となるよう、お子さまの学びを応援してあげてください。